

韓国日本語学会 ニュースレター [2018-03]



発行人：李吉鎔 / 編集人：朴江訓・孫榮爽・中村有里 / 発行所：韓国日本語学会 / 発行日：2018.9.11.

副学会長挨拶	1
会員近況	2
その他学会ニュース	3
常任理事会	5
編集委員会	6
第38回学術大会プログラム	9
『日本語学研究』論文投稿案内	21

중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실
〒06974 서울시 동작구 흑석로 84
中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室
〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84
H.P : 010・8917・9469(事務局長:全紫蓮)

E-mail : jlak123@hanmail.net Homepage : <http://www.jlak.or.kr>

副学会長挨拶



韓国日本語学会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

韓国日本語学会研究副会長、漢陽サイバー大学校の黄永熙でございます。

韓国日本語学会は、1999年の創立以来、多くの研究者の尽力により、名実ともに「日本語学専門学会」へと成長してまいりました。この場をお借りしまして、会員の皆様ならびに関連諸機関に感謝のご挨拶をさせていただきます。今後とも変わらぬご関心とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

韓国日本語学会は、まもなく創立20周年を迎えようとしています。個人的には、大学院入学直後に始まった学会ということで感慨も新たです。10代へと引き継いでまいりました執行部が実質的に活動を始めてから1年が経ちました。共に歩こうというスローガンの下、変わりゆく学界と教育界の最前線で教育・研究システムの創出に力を尽くしておりますが、内外の事情に鑑みずと、学会の総力を結集し、再度跳躍すべき時であるように思います。

去る8月、KCI(韓国学術誌引用評価)の日本語・文学分野「2017引用指数」にて本学会の学術誌「日本語学研究」が2位という成果を収め、専門学術誌としての位置づけを確認する契機となりました。玉稿をご投稿くださいました会員の皆様に心より御礼を申し上げます。併せまして、まもなく良い結果が発表されるであろうと期待されます学術誌継続評価に備えまして、これまで報告書ご作成に最善を尽くしてくださいました編集委員会ならびにTFチームのご尽力にも感謝致します。

来る9月15日、中央大学校にて「研究者倫理と言語研究」と題し「第38回国際学術大会」を開催致します。今回の学術大会では、談話研究分野の第一線でご活躍されている琉球大学の名嶋義直教授をお迎え、研究者の倫理観と社会的責務について共に考える「基調講演」の場を設けました。また、国史教科書研究所金柄憲教授をお迎えして「朝日修好条規(俗称、江華島条約)と研究者倫理」に関する「倫理講演」の席を設けました。さらに、国内外の研究者の36の研究成果を「一般発表(29)」「企画発表(1)」「ポスター発表(6)」という充実した形で準備致しました。今回の学術大会でも、キャリア形成のための教材開発という内容で「連携協力研究会研究発表」の場を設け、教育現場に実質的に役立ていただけますことと期待しております。

今回の秋季学術大会は、多くの方々のご関心とご尽力のおかげをもちまして、開催に漕ぎつけることができました。まずは、お忙しい中、素晴らしい研究成果をご発表くださる先生方、討論・司会・座長をお引き受けくださいました先生方に御礼を申し上げます。また、学術大会の準備と後援にご奔走くださいました中央大学校日本研究所、国際交流基金ソウル日本文化センター、時事日本語社、日本語検定協会等、ご後援を賜りました機関にも深く感謝致します。

最後に、学術の「術」には「人々が集まってできた村の中の道」という意味があります。今回の学術大会が会員の皆様の深い知識と知恵、技術が集まって学問の交流と談論、出会いの場になり、韓国における日本語学研究の新たな道となりますことを、心より祈念いたします。では、2018年9月15日、中央大学校にてお目にかかります。末筆ながら、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

2018年 9月

韓国日本語学会 第10代研究副会長 黄永熙

会 員 近 況

○ 図書及び教材(教科書)出版情報

- ・中井陽子(編著) 大場美和子・寅丸真澄・増田将伸・宮崎七湖・尹智鉉(著) 『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり』と軌跡ー研究から実践までー』(ナカニシヤ出版、2017年 発行)

○ 所属移動

- ・姜炅完 国民大学校教養大学(ソウル) → 大邱カトリック大学校日語日文学科(大邱、2018年9月～)

○ 事務局

〒06974 서울시 동작구 흑석로 84

중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실

〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84

中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室

E-mail : jlak123@hanmail.net

Homepage : <http://www.jlak.or.kr>

● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 884201-04-150294 이길용(한국일본어학회) 李吉鎔(韓国日本語学会)

- ・韓国日本語学会では海外団体会員(台湾日本語学会、日本国立国語研究所、国際交流基金日本語国際センター)に定期的に学術誌を発送しています。個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌(http://jlak.or.kr/modules/doc/index.php?doc=search&_M_ID=27)よりダウンロードできますのでご利用ください。

その他学会ニュース

1. 日本国立国語研究所第28回NINJAL講習会開催連

6/30(土)、7/1(日)の二日にわたり、中央大学校100周年記念館(310号館)にて、NINJAL講習会を開催しました。NINJAL講習会は、日本語学・言語学・日本語教育研究分野の最新の研究成果と研究方法を、大学生及び新進研究者を対象に教授するプログラムで、今回の28回では国立国語研究所の野田尚史教授と窪蘭晴夫教授が「日本語の音声と文法」という主題で講座を進行してくださいました。



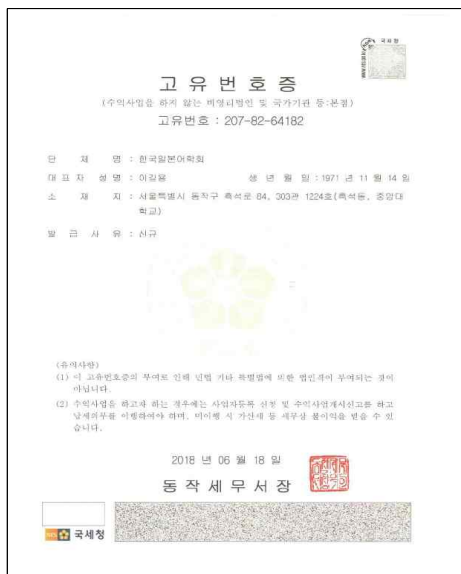
2. 韓国日本語学会・日本国立国語研究所学術交流協定締結

韓国日本語学会(会長 李吉鎔)と日本国立国語研究所(副所長 窪蘭晴夫)は、去る7/1(日)中央大学校100周年記念館にて、学術交流協定締結式を執り行いました。協定締結により、両機関は今後、学術研究、教育、及び社会の発展のため、友好関係を維持し、活発な相互交流を行っていくこととなりました。



3. 学会固有番号証取得

6/18(月)「収益事業を行わない非営利法人及び国家機関等」として、学会固有番号証を取得しました。



4. 姉妹学会学術大会

第10回中日対照言語学会国際学術大会が、2018年8月17日、中国蘇州にて「日中言語対比討論研究」という主題で開催されました。洪珉杓学術研究発展委員会委員長と李峻瑞国際理事が代表として参加しました。



5. 第7回韓国大学生日本語ディベート大会支援

韓国日本語学会は、日本語研究の成果の活用と社会的寄与という側面から「韓国大学生日本語ディベート大会」を2016年から公式後援してきましたが、今年も引き続き後援することを決定しました。本大会は、9/29(土)ソウル大会、9/30(日)釜山大会、10/6(土)全国杯を予定しております。多くの会員の皆様にご参加いただければと思います。

常 任 理 事 会

▲ 第10代常任理事会(4次)

日時：2018年7月28日(土)16時

場所：木洞 イタリア国立ビザ学校

1. 執行部関連

- 副会長、常任理事役割調整議決
 - ◎ 高慧禎 編集副会長 → 主席副会長
 - ◎ 趙容蘭 事務局長 → 事業企画理事
 - ◎ 全紫蓮 総務理事 → 事務局長兼任

2. 総務・事務局関連

- 韓国研究財団学術大会支援事業選定
- 韓国研究財団学術誌支援事業申請完了
- 日本国際交流基金支援金申請予定
- 国税庁に学会固有番号登録(準法人待遇)
- 9月学会要旨集にEast Ambition社広報文掲載

3. 編集関連

- 学術誌56集発行及び57集結果報告
- 学術誌評価関連報告(8月中旬結果発表予定)

4. 学術関連

- 第38回学術大会準備状況報告
- (発表者申し込み募集日程、司会者・討論者・座長交渉現況等)

5. 国際関連

- 2018年8月18日中日対照言語学会参加報告
- 日本国立国語研究所とのMOU締結報告
- (韓国にて隔年で日本国立国語研究所講習会開催予定)

6. 事業計画(企業部)関連

- 2019年学術賞支援：日本城西国際大学にて学術賞賞金全額支援論議



編集委員会

【55集 編集委員会】

・ 第1次編集委員会 (2018. 1. 13. 時事日本語学院本館302号室)

- 1) 第55集投稿論文確認及び報告 (15編)
- 2) 第55集投稿論文審査委員選定
- 3) 第55集審査日程論議
- 4) 第55集投稿論文審査依頼
- 5) 編集委員会関連常任理事会案件確認及び論議

・ 第2次編集委員会 (2018. 1. 29. サイバー編集委員会)

- 1) 第55集審査進行確認

・ 第3次編集委員会 (2018. 2. 12. 時事日本語学院本館206号室)

- 1) 第55集投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第55集投稿論文審査の結果、10編の掲載を決定
- 3) 第55集審査結果通知及び投稿者修正依頼

・ 第4次編集委員会 (2018. 2. 21. サイバー編集委員会)

- 1) 第55集投稿者修正内容確認
- 2) チェクサラン編集依頼、英文要旨監修依頼

・ 第5次編集委員会 (2018. 3. 7. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第55集1次刊行作業経過確認
- 2) 第55集1次刊行作業及び校正作業

・ 第6次編集委員会 (2018. 3. 15. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第55集最終校正作業
- 2) 第55集印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程点検

・ 「日本語学研究」第55集発刊 (2018. 3. 20.)



編集委員会

【56集 編集委員会】

・ 第1次編集委員会 (2018. 4. 6. 時事日本語学院本館404号室)

- 1) 第56集投稿論文確認及び報告 (12編)
- 2) 第56集投稿論文審査委員選定
- 3) 第56集審査日程論議
- 4) 第56集投稿論文審査依頼
- 5) 学術誌継続評価対策実務論議

・ 第2次編集委員会 (2018. 4. 20. サイバー編集委員会)

- 1) 第56集審査進行確認

・ 第3次編集委員会 (2018. 5. 4. 時事日本語学院本館207号室)

- 1) 第56集投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第56集投稿論文審査の結果、8編の掲載を決定
- 3) 第56集審査結果通知及び投稿者修正依頼

・ 第4次編集委員会 (2018. 5. 19. サイバー編集委員会)

- 1) 第56集投稿者修正内容確認
- 2) チェクサラン編集依頼、英文要旨監修依頼

・ 第5次編集委員会 (2018. 6. 1. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第56集1次刊行作業経過確認
- 2) 第56集1次刊行作業及び校正作業

・ 第6次編集委員会 (2018. 6. 14. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第56集最終校正作業
- 2) 第56集印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程点検

・ 「日本語学研究」第56集発刊 (2018. 6. 20.)



編集委員会

【57集 編集委員会】

- ・ 第1次編集委員会 (2018. 7. 9. 時事日本語学院本館206号室)
 - 1) 第57集投稿論文確認及び報告 (17編)
 - 2) 第57集投稿論文審査委員選定
 - 3) 第57集審査日程論議
 - 4) 第57集投稿論文審査依頼
- ・ 第2次編集委員会 (2018. 7. 31. サイバー編集委員会)
 - 1) 第57集審査進行確認
- ・ 第3次編集委員会 (2018. 8. 10. 時事日本語学院本館304号室)
 - 1) 第57集投稿論文審査結果報告及び確認
 - 2) 第57集投稿論文審査の結果、10編の掲載を決定
 - 3) 第57集審査結果通知及び投稿者修正依頼
- ・ 第4次編集委員会 (2018. 8. 19. サイバー編集委員会)
 - 1) 第57集投稿者修正内容確認
 - 2) 英文要旨監修依頼、チェックサラン編集依頼
- ・ 第5次編集委員会 (2018. 8. 31. 図書出版チェックサラン)
 - 1) 第57集1次刊行作業経過確認
 - 2) 第57集1次刊行作業及び校正作業
- ・ 第6次編集委員会 (2018. 9. 6. 図書出版チェックサラン)
 - 1) 第57集最終校正作業
 - 2) 第57集印刷依頼
 - 3) 編集委員会今後の日程点検
- ・ 『日本語学研究』第57集発刊 (2018. 9. 20. 予定)



韓國日本語學會 第38回 國際學術發表大會

< 主 題 >

연구자윤리와 언어연구
(研究者倫理と言語研究)

< 基調講演 >

私にとっての研究者倫理
-民主的シティズンシップ教育の実践-
연구자 윤리
-민주적 시티즌십 교육의 실천-

名嶋義直 (琉球大学)
나지마요시나오 (류큐대학)

- ・ 日時：2018年 9月 15日(土)
- ・ 場所：中央大學校
- ・ 主催：韓國日本語學會
- ・ 主管：韓國日本語學會, 中央大學校 日本研究所
中央大學校 ASIA文化學部 日本語文學專攻
- ・ 後援：中央大學校, 韓國研究財團, JAPAN FOUNDATION SEOUL
時事日本語社, 日本語檢定協會J.TEST韓國事務局
East Ambition社



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第38回 國際學術發表大會

- 日時：2018年 9月 15日(土)
 ■ 場所：中央大學校 302館(大學院)

< Program >

09:30-10:00	接受		302館 5層 Lobby
10:00-12:10	・ 一般發表	・ 第1發表會場 ・ 第2發表會場 ・ 第3發表會場 ・ 第4發表會場 ・ 第5發表會場 ・ 第6發表會場	302館 401 302館 402 302館 403 302館 507 302館 502-1 302館 501
12:10-13:30	中食・交流		308館 地下 1層
13:30-14:00	・ 開會式 ＜司會：河在必(韓國外大)＞ ・ 開會辭：高慧禎 首席副會長 (Catholic關東大) ・ 歡迎辭：具廷鎬 所長 (中央大 日本研究所) ・ 祝辭：山崎宏樹 所長 (日本國際交流基金ソウル文化センター)		302館 503
14:00-14:30	・ 研究倫理教育講演 金柄憲 所長 (國史教科書研究所)		
14:30-14:40	休息		
14:40-15:40	・ 基調講演 名嶋義直 (琉球大)		
15:40-16:00	休息		
	Poster Session (16:00-17:30)		302館 503
16:00-18:10	・ 一般發表	・ 第1發表會場 ・ 第2發表會場 ・ 第3發表會場 ・ 第4發表會場 ・ 第5發表會場 ・ 第6發表會場	302館 401 302館 402 302館 403 302館 507 302館 502-1 302館 501
18:10-19:30	懇談會		102館 11層

<研究倫理教育講演>

14:00-14:30

[302館 503]

司會: 河在必(韓國外大)

國史 研究者의 一次史料 歪曲 實態
 -朝日修好條規를 中心으로-

金柄憲 所長 (國史教科書研究所)

<基調講演>

14:40-15:40

[302館 503]

司會: 朴江訓(全州大)

私にとっての研究者倫理
 -民主的シティズンシップ教育の実践-

연구자 윤리
 -민주적 시티즌십 교육의 실천-

名嶋義直 (琉球大)

第1発表会場

[302館 401]

■ 企画発表

座長: 洪珉杓(啓明大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -12:10	中井陽子 (東京外大)	キャリア形成支援を目的とした教材開発 ーインタビュー調査で語られた体験談をもとにー	日	小松奈々 (高麗大) 金義泳 (徳成女大)	辛銀眞 (明知大)
	菅長理恵 (東京外大)	ライフストーリーから教材への階梯 ー体験談を読み物にするまでー	日	姜美善 (漢陽女大) 迫田あきこ (Seoul女大)	
	渋谷博子 (東京外大)	中上級日本語クラス 「キャリアプランを考えよう!」の実践 ー体験談にもとづいた教材を用いた 授業と学習者の学びー	日	国生和美 (東國大) 鄭賢児 (西京大)	
	菅長理恵 中井陽子 渋谷博子 (東京外大)	キャリア形成支援教材のねらいを形にする ー体験談にもとづいた読み物の設問と 活動を考えるー	日	Workshop	
12:10 -13:30	中食・交流				
13:30 -14:30	開會式・研究倫理教育講演				
14:30 -14:40	休息				
14:40 -15:40	基調講演				

■ 日本語教育

座長: 崔殷赫(仁川大)

16:00 -16:40	本多美保 (梨花女大) 朴憲成 (Hanbat大)	韓国の大学における中級作文授業の現況 ー母語話者教師の授業を対象にー	日	角ゆりか (明知大) 石井奈保美 (同徳女大)	恩塚千代 (大阪体育 大学浪商)
16:40 -17:20	金보에 (筑波大)	日帝植民地時代の日本語教授法の転換 ー対訳法から直接法へー	韓	金元美 (鮮文大) 李賢正 (釜慶大)	成琬珂 (祥明大)
17:20 -17:30	休息				
17:30 -18:10	宋淑正 (中原大)	일제강점기 조선총독부 발행 국어독본에 관한 일고찰 日本統治下朝鮮總政府が発行した 国語読本に関する一考察	韓	成琬珂 (祥明大) 尹材淑 (高麗大)	韓中瑄 (U1大)

第2発表会場

[302館 402]

■ 日本語教育

座長: 金玉任(誠信女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	張倩 (中央大)	중국인과 한국인 일본어 학습자의 스타일 전환 습득 실태 비교 中国人と韓国人日本語学習者の スタイル切り替えの習得実態の比較	韓	申恩淨 (同徳女大) 金英朱 (中央大)	郭銀心 (京畿大)
10:40 -11:20	賴振南 (輔仁大)	台湾の外国語教育事情から学ぶ ー国際医療文化社会への貢献を目指した 国際医療翻訳ー	日	方允炯 (水原大) 李朱利愛 (梨花女大)	趙宣映 (培材大)
11:20 -11:30	休息				
11:30 -12:10	磯野英治 (名古屋商科大)	言語景観を活用したビデオ教材の制作に おけるシナリオについて	日	孫榮爽 (濟州大) 恩塚千代 (大阪体育 大学浪商)	孫範基 (韓國外大)
12:10 -13:30	中食・交流				
13:30 -14:30	開會式・研究倫理教育講演				
14:30 -14:40	休息				
14:40 -15:40	基調講演				

■ 日本語教育・敬語

座長: 李美淑(明知大)

16:00 -16:40	干昊載 (啓明大)	일본어학과 해탈 日本語学と解脱	韓	南美英 (慶星大) 崔瑞映 (崇實大)	崔鍾勳 (仁徳大)
16:40 -17:20	朴江訓 (全州大)	한국 성인 학습자의 일·영 멀티링구얼 교육 모델 구축 연구 韓国の成人学習者の日・英のマルチリンガル 教育のモデルの構築研究	韓	張根壽 (祥明大) 申義植 (韓國外大)	金平江 (祥明大)
17:20 -17:30	休息				
17:30 -18:10	李讓珍 (嶺南大)	「お / ご~させていただく」に関する一考察 ー「国会会議録検索システム」を利用してー	日	宋惠仙 (仁徳大) 李受香 (嘉泉大)	閔丞希 (中原大)

第3發表會場

[302館 403]

■ 文法

座長:鄭相哲(韓國外大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	黃永熙 (漢陽Cyber大)	일본어 아스펙트 표현의 습득, 유지, 마멸, 상실 그리고 재구성 日本語のアスペクト表現の習得、維持、摩滅、喪失、そして再構成	韓	白以然 (高麗大) 崔銀姬 (西江大)	朴海煥 (淑明女大)
10:40 -11:20	崔眞姬 (白石文化大)	日本語学習者の「こと・の」の使用傾向	日	張希朱 (韓國外大) 坂口清香 (韓國外大)	南得鉉 (明知專門大)
11:20 -11:30	休息				
11:30 -12:10	徐衛 (蘇州大)	中日古代と近代の公文書類別の対照研究	日	尹錫任 (青雲大) 朴志恩 (全州大)	千昊載 (啓明大)
12:10 -13:30	中食・交流				
13:30 -14:30	開會式・研究倫理教育講演				
14:30 -14:40	休息				
14:40 -15:40	基調講演				

■ 文法

座長:趙南星(Hanbat大)

16:00 -16:40	金秀珍 (崇實大) 寺井妃呂美 (弘益大)	項構造をもつ名詞句「NP1のNP2」の再考察 -西山(2003、2013)のタイプEをめぐって-	日	于一樂 (滋賀大) 蔡盛植 (高麗大)	鄭相美 (新羅大)
16:40 -17:20	金美燕 (韓國外大)	데이터를 통해서 본 일본어 자동사의 수동에 대하여 -현대어를 중심으로- 데이터を通じてみた 日本語自動詞の受身について -現代語を中心に-	韓	李廷玉 (同德女大) 劉맑음 (Catholic 關東大)	朴種升 (江陵原州大)
17:20 -17:30	休息				
17:30 -18:10	權城 (Hanbat大)	「だろう」「かもしれない」「はず」の 共起する形式の調査研究	日	文彰鶴 (韓國外大) 金惠娟 (建國大)	金原鎰 (白石文化大)

第4發表會場

[302館 507]

■ 文法

座長:韓先熙(祥明大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40					
10:40 -11:20	朴秀娟 (神戶大)	現代日本語における「あくまで(も)」の 意味・用法	日	笹本明子 (白石藝大) 全紫蓮 (韓國外大)	李竣瑞 (聖潔大)
11:20 -11:30	休息				
11:30 -12:10	深見兼孝 (広島大)	現代日本語の「デ格人数構文」に 関する一考察	日	裴晋影 (白石大) 瀬楽亨 (韓國外大)	韓先熙 (祥明大)
12:10 -13:30	中食・交流				
13:30 -14:30	開會式・研究倫理教育講演				
14:30 -14:40	休息				
14:40 -15:40	基調講演				

■ 社會言語學

座長:金光泰(韓瑞大)

16:00 -16:40	安芝恩 (九州大)	接觸場面における中国人日本語学習者の CSに関する一考察	日	盧性鉉 (德成女大) 張良光 (Catholic大)	李恩美 (明知大)
16:40 -17:20	林始恩 (韓國外大)	「そうですね」의 발화문맥에 대하여 「そうですね」の発話状況について	韓	金銀淑 (平澤大) 鄭榮美 (韓國觀光大)	琴鍾愛 (忠南大)
17:20 -17:30	休息				
17:30 -18:10	持田祐美子 (平澤大) 中村有里 (仁川大)	謝罪研究の動向と展望 -日本の場合-	日	張允娥 (慶熙大) 岩井朝乃 (弘益大)	国生和美 (東國大)

第5發表會場

[302館 502-1]

■ 對照

座長:李暉洙(放送大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	殷守希 (淑明女大)	일한 양언어의 비가열조리동사 대조연구 -혼합과 발효를 중심으로- 日韓兩言語における非加熱調理動詞の対照研究 -混合と醗酵を中心に-	韓	金桂連 (韓國外大) 宋殷美 (白石藝大)	朴孝庚 (漢陽Cyber大)
10:40 -11:20	金廷珉 (麗澤大)	英語を原言語とした日韓対訳集に見られる 中断節の現れ方	日	李庸伯 (韓國教育課程評價院) 小松義貴 (Seoul大)	米沢史織 (淑明女大)
11:20 -11:30	休息				
11:30 -12:10	李忠奎 (西原大)	日本語の複合動詞と韓国語の副詞との 対応関係に関する研究	日	李暉洙 (放送大) 崔淑伊 (仁川大)	李相怡 (東國大)
12:10 -13:30	中食・交流				
13:30 -14:30	開會式・研究倫理教育講演				
14:30 -14:40	休息				
14:40 -15:40	基調講演				

■ 語彙

座長:韓中瑄(U1大)

16:00 -16:40	金到閔 (嶺南大)	日・韓の両言語の動詞の多義語に関する考察 -遊ぶと놀다を中心に-	日	金英兒 (圓光大) 井田泉 (順天鄉大)	李羽濟 (白石藝大)
16:40 -17:20	韓中瑄 (U1大)	韓國 日本語 外來語 辭典 歷史 小考 -韓國の日本語外來語辭書歷史に関する考察-	韓	張元哉 (啓明大) 孫京鎬 (延世大)	吳京順 (Catholic大)
17:20 -17:30	休息				
17:30 -18:10					

第6發表會場

[302館 501]

■ 語史

座長:姜錫祐(Catholic大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40					
10:40 -11:20	東ヶ崎 祐一 (慶熙大)	『児学編』にみられる 日本語の文字と表記について	日	齋藤明美 (翰林大) 具明會 (中源大)	李東郁 (漢陽女大)
11:20 -12:00	譙燕 (北京外國語大)	中国のインターネットにおける 日本語借用語の受容と使用に関する一考察	日	權景愛 (韓國外大) 尾崎達治 (全南大)	朴才煥 (京畿大)
12:10 -13:30	中食・交流				
13:30 -14:30	開會式・研究倫理教育講演				
14:30 -14:40	休息				
14:40 -15:40	基調講演				

■ 音韻・文化

座長:蔡京希(培花女大)

16:00 -16:40	河素貞 (Seoul女大) 李京哲 (東國大)	對應規則을 통한 日本漢字音 指導法 -入계열을 중심으로- 対応規則を通じた日本漢字音指導法 -入系列を中心にして-	韓	李承英 (光云大) 鄭炫赫 (Cyber韓國外大)	蔡京希 (培花女大)
16:40 -17:20	趙容蘭 (中央大)	다도구 명명(命銘)에 있어서 가명(歌銘)의 역할 茶道具命銘における歌銘の役割	韓	申惠淑 (鮮文大) 張富妍 (延世大)	孫範基 (韓國外大)
17:20 -17:30	休息				
17:30 -18:10					

Poster Session

[302館 503]

16:00-17:30

番號	主題	發表者	發表言語
P-01	対馬の韓国人観光客の密集地域における言語景観 －比田勝港と厳原港を中心に－	孫美貞 (慶北大)	日
P-02	韓国の商品販売市場に浸透した日本語景観 －大型スーパーを事例に－	李賢貞 (慶北大)	日
P-03	韓国の日本語景観にみられる言語接触現象	李舜炯 (慶北大)	日
P-04	日本の 동물園・水族館の 언어경관 日本の動物園・水族館の言語景観	李承珉 (慶北大)	韓
P-05	자기조정 학습이론에 기초한 내성 워크시트의 활용 －이야기나누기의 활성화를 위하여－ 自己調整学習理論に基づく内省ワークシートの活用 －話し合いの活性化のために－	趙宣映 (培材大)	韓
P-06	『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる 「一生懸命に」・「熱心に」の違いについて	趙恩英 (釜山外大)	日

地圖·交通案内

[중앙대학교 찾아오시는 길]



주 소 · 전 화

(06974) 서울시 동작구 흑석로 84 <☎ 02-820-5114/6114>

교통편

【 지하철 이용시 】

- ☞ 7호선 상도역(중앙대 앞) 5번 출구 하차 후 도보로 10분 거리
- ☞ 4호선 동작역 (또는 1호선 노량진역) 하차 후 흑석동 방향으로 걸어나와서 버스타고 10분 거리
- ☞ 4호선 신용산역 (또는 1호선 용산역) 하차 후 한강대교 방면 버스타고 10분 거리
- ☞ 9호선 중앙대 입구역(흑석역) 하차 도보 15분 거리

【 버스 이용시 】

- ☞ 지선버스 5511(서울대→중앙대) 5517(서울대→중앙대) 5524(신림8동→중대입구) 5529(삼막사사거리→중앙대) 6411(구로동→개포동)
- ☞ 간선버스 151(우의동→중앙대) 360(송파→여의도) 361(고덕동→영등포) 362(오금동→여의도) 363(송파→여의도) 640(신월동→삼성역) 642(방화동→고속터미널) 462(성남→영등포)
- ☞ 마을버스 동작01 (달마사→수산시장) 동작10 (신동아아파트→절개개)

【 자가용 이용시 】 ☞ 자동차 출입은 중앙대학교 '후문'으로 가능

地図・交通アクセス

[中央大学 交通アクセス]



① 住所・電話

〒(06974) ソウル市銅雀區黒石路84 <☎ 02-820-5114/6114>

② 交通

【 地下鉄のご利用 】

- ☞ 7号線 上道駅(中央大前) 5番出口下車後、徒歩で10分の距離
- ☞ 4号線 銅雀駅 (または1号線 鷺梁津駅) 下車後、黒石洞方面に歩いてバスに乗りし10分の距離
- ☞ 4号線 新龍山駅 (または1号線 龍山駅) 下車後、漢江大橋方面のバスに乗りし10分の距離
- ☞ 9号線 中央大入口駅(黒石駅) 下車、徒歩15分の距離

【 バスのご利用 】

- ☞ 支線バス 5511, 5517, 5524, 5529, 6411
- ☞ 幹線バス 151, 360, 361, 362, 363, 640, 642, 462
- ☞ マウルバス 銅雀01, 銅雀10
銅雀01番, 銅雀10番, 銅雀21番バスに乗り後、302館は後門で下車

【 お車のご利用 】 ☞ 自動車の出入りは、中央大学 '後門'にて可能

『日本語学研究』論文投稿案内

■ 投稿規定

第1条 (学会誌発刊日程)

	学会誌発刊日	論文投稿締切日
第1回発刊	3月20日	前年12月31日
第2回発刊	6月20日	3月31日
第3回発刊	9月20日	6月30日
第4回発刊	12月20日	9月30日

- ①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。
- ②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条 (投稿資格)

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②会員との共同投稿者及び招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条 (投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条 (論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならない。本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条 (掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。

第6条 (分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条 (投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の監査が記入の有無を確認する。

第8条（審査）

投稿された論文は審査規定に則り、オフライン編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、オフライン編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の審査担当編集委員(査読委員)1人以上が必ず含まれなければならない。

第9条（審査料及び掲載料）

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿の締切日まで、掲載料は掲載用の原稿提出締切日までに入金する。

第10条（校正）

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条（別刷本）

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外配送の場合は3万ウォンの費用が発生する。

第12条（著作権）

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、当論文のオンライン及びオフライン著作権は本学会に帰属する。

第13条（その他）

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

<付則>

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年01月13日から改訂・施行される。

『日本語学研究』投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿は ㄹ を使用して作成することを原則とし、 ㄹ で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、 ㄹ を使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例:音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育、(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学 (Other Japanese Studies))

⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一の著者の文献である場合、著者名にする。

例) 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5

김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』제6집 한국일본어학회 pp.1-5

Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. *Language in Society*, NY: Harper

Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に <図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20.))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

■ 審査料及び、掲載料入金要領

【予稿集発刊費】

- 入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)
- 金額:10,000ウォン

【審査料】

- 入金期限:論文投稿締切日
- 金額:60,000ウォン

【掲載料】

- 入金期限:掲載用原稿の提出締切日
- 金額:学会発表論文:一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)
無発表論文 :一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)
※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

【入金口座】

- 口座番号:国民銀行 884201-04-150294 (李吉鎔)
- ※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例:山田太郎 審査料)

【審査及び掲載用論文提出先】

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

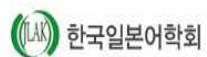
■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

- 編集用紙の形式は以下の通りである。
 - 種類:使用者定義, 幅170, 縦240
 - 余白:上20, ヘッダー10, 下10, フッター0, 左15, 右15
- 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* 学会ホームページの論文作成例示を参考にすること。



■ 학회사무국	■ 学会事務局
주소: 〒06974 서울시 동작구 흑석로 84 중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실 H.P : 010 · 8917 · 9469(사무국장:전자연)	住所: 06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84 中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室 携帯 : 010 · 8917 · 9469(事務局長:全紫蓮)
E-mail : jlak123@hanmail.net	Homepage : http://www.jlak.or.kr

ニュースレターでは会員の皆様の新規・変更等の情報をお知らせしています。
記事の掲載をご希望の方は学会の公式メールアドレス(jlak123@hanmail.net)までお知らせください。